

主 題：教会が教会であるために5

聖書箇所：ペテロの手紙第一 5章12－14節

神が喜ばれる教会とはどのような教会なのか、私たちはこれまでこの5章のところからペテロが教える九つの教えのうち、七つを学んできました。

- A. 羊を牧しなさい：長老たちへの命令 1－4節
霊的リーダーに対して、神の羊をしっかり飼うように。
- B. 長老に従いなさい：若者たちへの命令 5節
主が望まれることはすべての教会員がリーダーシップに従うこと。
- C. 謙遜を身に付けなさい：すべての人たちへの命令 5節
イエスが最後の晩餐のときに弟子たちの足を洗われた、その姿こそ私たちが学ばなければならない模範であること、お互いに対して謙遜であれ、人を自分より勝っていると思い、自分の利益よりも他の人に仕える機会を探って行きなさい。
- D. へりくだりなさい（神に対して）：すべての人たちへの命令 6－7節
神を正しく崇めること、どんなときにも神を疑うことなく、希望、期待をおいて歩んで行くように、神を神として正しく崇めているならいっさいの思い煩いを主にゆだねるはずだと教えました。自分の責任を放棄することではありません。必ず神のみこころが為されることを確信して与えられた責任を果たして行きます。思い煩う原因は自分にあることを認めることです。神への信頼が問題への解決のカギです。真に神を知るために神は試練を与えられるのです。「**主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。**」（ルカ1：45）。このような私たちであるなら、神は心から神を信頼する者へと変えていってくださるのです。
- E. 身を慎みなさい：すべての人たちへの命令 8節
神の前にいつも正しいことを選択して行くことです。
- F. 目を覚ましていなさい：すべての人たちへの命令 8節
みことばにいつも立つことです。サタンは一生懸命私たちに誘惑して、私たちが神のみことばを疑うように、私たちの思いが偽りへと傾くようにと働くからです。みことばにしっかり立って神のみこころに確信することです。
- G. 立ち向かいなさい：すべての人たちへの命令 9節
私たちは勝利者です。イエス・キリストにつながる者です。神に信頼することが勝利の秘訣です。みことばの約束にしっかり立つこと。

今日は12－14節から最後の二つの命令を学んで行きます。8番目の命令は、

H. しっかりと立っていなさい 12節

「私の認めている忠実な兄弟シルワノによって、私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。」、ペテロはここで「シルワノ」というクリスチャンの名を挙げています。この人物は使徒の働きの中には「シラス」とあり同一人物です。パウロの宣教旅行に同行した信仰者です。使徒15：40に「**パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。**」と記されています。彼はエルサレム教会の大切な指導者でした。また、使徒15：32には彼が預言者であったとも記されています。「**ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。**」。パウロだけでなく、ペテロもシラスに信頼を置いていました。そして、みことばを見るとシラスがこの手紙を読者のところに届けたのです。

12節にはペテロがこの手紙を書いた理由が二つ記されています。

(1) **勧めをするため**：兄弟姉妹たちに勧めをするためにペテロはこの手紙を送ったのです。「勧めをし」とは、励ます、慰める、力づける、という意味です。すでに学んできたように、この兄弟姉妹たちもこれからますます大きな迫害を受けてゆく、今ペテロが経験している迫害は次第に彼らの所にまで及んで行くことをペテロは知っていたのです。もうすでにいろいろな迫害に遭遇していることをペテロは5章で私たちに教えています。だから、その迫害の中にいる彼らを励ますために、慰めるために、力づけるために、手紙を送るのだということをここで証しているのです。

(2) **神の真の恵みをあかしするため**：「あかしする」とは証拠を提供するとか、証拠によってそれが事実であることを確認するという意味をもったことばです。つまり、ペテロは神の恵みがどれほどすばらしいものなのか、そして、このすばらしい恵みによって、たとえどのような迫害の中にあっても、ど

のような状況にあっても、あなたは支えられて生きることができるのだという事実を確信をもって教えて行くのです。どれほど素晴らしい祝福の中にあるのかを教えるのです。神の恵み、それはこの手紙の中でペテロは繰り返し教えてきました。神の恵みはあなたを罪より救ったこと、特に1：3、4にこのように教えています。「**私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。**」、神は私たちを新しく生まれ変わらせてくださった、そして「生ける望みを持つようにして」くださったと、私たちはこの地上のものだけでなく将来を見て生きて行くのだと言います。この肉体が滅んでもその先を見てそこに希望をもつのです。神とともに永遠を過ごす約束をいただいたのです。これが恵みだということです。また、素晴らしい宝が天に蓄えられていることを4節で教え「**また、朽ちることも汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。**」、そして5節、「**あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。**」、感謝なことに、救いをいただいた私たちは神の御手によって守られ続けるのです。しかも、この素晴らしい救いは天使も経験したことがないと言います。1：12「**彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。**」、罪を犯した天使たちに救いはありません。彼らには永遠の滅びが待っているのです。しかし、同じように罪を犯した私たちには救いが備えられたのです。そして、私たちはイエスの恵みによって罪赦され救いに与ったのです。

救われた私たちは神に対して多くの感謝があります。その最も大きな感謝はこんな私を救ってくださったという神の恵みに対してです。救いのすばらしさをしっかり覚えて感謝するのです。ペテロはそのことを繰り返し教えます。このペテロの手紙1：1－12は教理を教えます。そして、13節からは実践を教えるのです。ペテロはクリスチャンがどのように生きていくのかを教えてくださいました。いくつかのみことばを見て行きましょう。救われた私たちに神はこのように言われました。1：15「**あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。**」神は私たちを聖いものにくださるのです。1：17には「**また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。**」と、神を恐れかしこむものにしようとして神は私たちに働かれます。また、兄弟姉妹を愛する者へと変えてくださるのです。1：22「**あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。**」。そして、この素晴らしい救いを人々に伝えようとします。2：9「**しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。**」。2：12には私たちがこの地上にあってりっぱな生き方をするように変えてくださるとあります。「**異邦人の中にあって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。**」。そして、いろいろな不当な苦しみを耐え忍ぶ者へと変えてくださるのです。2：19「**人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。**」。3章でも同じように教えます。私たちが善を行なう者に変えようと神は働かれるとあり、4章では、私たちが神から与えられた賜物を用いて主に仕える者になるように神は働かれると教えます。

私たちを神に喜ばれる者へと変えようと今も神は私たちのうちに働かれているということです。そして、変わって行くために必要なすべてものを備えてくださった、それが恵みなのです。ゆえに、私たちはこの恵みの上に立って変わって行くことを願い求めることが大切なのです。変わって行かないのはそれを望まないからです。選択を教えるのです。ペテロは「**この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。**」と言いました。神の恵みが常に備えられていることを忘れてはならないということです。恵みによって救われ恵みによって守られているのだからということです。神がこの私をどのように変えていってくださいのか、それがクリスチャンの希望です。この希望をもって生きて行けるのです。必要なことは、主よ、どうぞ私を変えてくださいという心からの願いです。

I. あいさつをかわしなさい 13－14節

これが9番目の命令です。13－14節「**バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。14 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。**」、ペテロは最後に何をクリスチャンに望んだのでしょうか？兄弟姉妹が互いに愛し合うことです。それを見る前に、13節にペテロはあい

さつを送っています。「バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。」と、このバビロンとはどこでしょう？今話題になっているイラクでしょうか？実はこれはローマを指しているのです。なぜそう言えるのかというと、紀元1世紀においてユダヤ人の文献にはバビロンはローマのことと記されているのです。同時に、黙示録を見てもバビロンと書かれています、それはローマを指しているのです。黙示録17：5「その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、『すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン。』という名であった。」と、他の箇所にもありますが、それはローマのことなのです。なぜなら、旧約時代において、バビロンは罪に満ちた町でした。町も人々も神に逆らい情欲に満ち溢れた墮落した国でした。新約の時代になって、まさにそれはローマです。ローマも同じように神に逆らい、神を愛する者を迫害し、罪にあふれた国家でした。ですから、ペテロがここで「バビロンにいる」といったとき、人々はそれがローマのことであるとよく分かったのです。

また、「婦人がよろしく」とあるのは何のことでしょう？「婦人」を文字通りに解釈するか比喩的に解釈するかで大きく違ってきます。ある人は文字通りに解釈して、ペテロの妻かそれ以外のだれか女性だと言います。確かに、コリント人への手紙を見るとペテロも宣教旅行に婦人を伴っていたことが分かります。ペテロは既婚者でしたから、働きに妻を伴っていたことは聖書の中にも記されています。しかし、なぜ特定の婦人がこのようにあいさつを送るのか疑問です。そこで、これを比喩的に解釈すると、これは教会を指します。どちらかという、これは教会を指していると解釈するその理由が、実は「教会」というギリシャ語が女性名詞だからです。そして、教会はキリストの花嫁として扱われています。そのようなことから、ペテロはここで、ローマにいるあなたたちと同じように神の恵みによって救いに与った教会の皆から、兄弟姉妹であるあなたたちにあいさつを送るというのです。

もう一つここにあいさつの送り手が出ています。「マルコも」とあります。マルコとはバルナバの従兄弟で、この手紙が記されたとき彼はローマにいたことが分かっています。そこからもバビロンがローマであると結論づけて行くのですが、ペテロは「私の子マルコ」と言っています。パウロが同じような表現をテモテに対して使った場合、パウロが伝道してテモテが救われたから、霊的な子どもと呼んでいます。ペテロの伝道によってマルコが救われたのかどうかはわかりませんが、ペテロは霊的な意味で言っていることは確かです。ペテロの弟子であったマルコ、このような人たちがよろしく言っているというのです。

そして、14節「愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。」と続きます。特に初代教会にあって「口づけ」というのは、交わりと愛のしるしとして人々は実践しました。ローマ16：16「あなたがたは聖なる口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみな、あなたがたによろしくと言っています。」、Ⅰコリント16：20「すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい。」、Ⅱコリント13：12「聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。」、Ⅰテサロニケ5：26「すべての兄弟たちに、聖なる口づけをもってあいさつをなさい。」

ペテロはここでこのようなあいさつの方法を教えているのでしょうか？形ではなくそこには愛が必要だと教えたかったのです。バークレーはこのように言っています。「これは教会がまだほんとうの家族、ほんとうの交わりであった頃、キリスト者がお互いどうしをよく知り愛し合ったところに起こったのである」と。ほんとうに愛し合っていたので彼らは自然にそのようなあいさつをしたのです。愛するという思いがそのような「口づけ」という形に表われたのです。バークレーは続けて言います。「それは交わりの真実性が教会内で失われて行くとき、存在するのを止めざるを得なくなった美しい習慣である」と。交わりがだんだん希薄になり、次第に愛の交わりが失われていったというのです。

ペテロが教えるように、神に喜ばれる教会になるために私たちが実践することは兄弟姉妹を心から愛することです。お互いのために祈り合って行くこと、お互いに助け励まして行くこと、それは愛の行為です。私たちが教会の人のことに重荷をもつとき、神はいろいろな働きを示してください。心に重荷をくださり、訪問したり手紙を書いたりします。それは喜んで主に仕えようすることを主が用いてくださるからです。そのように私たちは愛を示して行きます。愛し合っているなら、お互いの悪口を言ったり、噂をしたり、批判を口にするなどは愛の行為ではないはずです。お互いの必要に応えること、お互いに霊的に成長して行くために高め合って行くこと、そのような交わりを持ってゆくことが必要です。私たちが愛し合うとき、世に対して大きな証を成すことができるのです。私たちが互いに救われたことを喜び、兄弟姉妹とされたことを喜んでいるなら、おのずとそこには一致が生まれてきます。愛し合って行くとき結果として一致がもたらされるのです。

最後に、ペテロは「キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。」ということばでこの手紙を締め括ります。パウロもまた同じようなあいさつをしています。ペテロはここで「平安があるように」と言っていますが、イエスもこのような祝福を与えられました。私たちクリスチャンは神の恵

みによって救われ日々の歩みにおいて神が必要な恵みを備えてくださり、そして、どんなときにもこの神の平安をもって生きて行くことができる、そのことをしっかり覚えることが大切です。この祝福に与ったのは救われた者だけです。イエスがヨハネの福音書で言われたように、14：27「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」と、神がもっておられる平安を神はもう私たちに与えてくださったのです。だから、その平安をもって生きて行くことができるのです。このような祝福に与っているのです。では、なぜ私は平安をもって生きて行けないのでしょうか？それは私たちが神のすばらしさを忘れてしまっているからです。神の方を見ないで状況に目を奪われてしまうからです。

私たちがどのように歩んで行くと神の祝福を自分のものにすることができるのかを学んできました。神の前に正しく歩んで行くと神は祝福をくださるのです。神の平安は私たちに与えられており、その平安をもって日々歩んで行けるのです。この5章を通して、教会が主に喜ばれる教会になるためにそれぞれがどのような責任を果たして行くことが必要かを見てきました。9つの命令でした。

1. リーダーたちよ、神の羊を飼いなさい。
2. 霊的なリーダーに従って行きなさい。
3. お互いに対して謙遜であるように。
4. 神を正しく崇めなさい。
5. 神の前に正しいことを選択すること。
6. 常にみことばに立つこと。
7. 常にみことばに信頼すること。
8. 神の恵みを忘れない。
9. お互いに愛し合う。

このような者にあなたが変えられなさい、その時に群全体が変えられて行くのだと教えるのです。群が神に喜ばれる群へと変えられるのです。このペテロ第一の手紙を終えるにあたって、ぜひ覚えておいていただきたいこと、それは、いつもどんなときにもあなたは希望と期待をもって生きて行けるということです。もし、あなたが今問題に直面しておられるとしたら、しっかりと神を見上げることです。これから、主がどのように導いてくださるのか、どのようなわざを成して行かれるのか、それを期待することです。私たちは期待できるのです。この方が神だから…。神は必ずそれらを通してご自身の栄光を現わしてくださるのです。その約束に立つことができます。それによって自分の信仰が成長し、神のすばらしさが証されます。主よ、どうぞあなたのみわざを成してくださいと期待でき、このように期待して行けるから信仰生活は楽しいのです。喜びがあるのです。神とともに歩む信仰生活こそ、救われた目的である神の栄光が現わされる歩みとなるのです。